

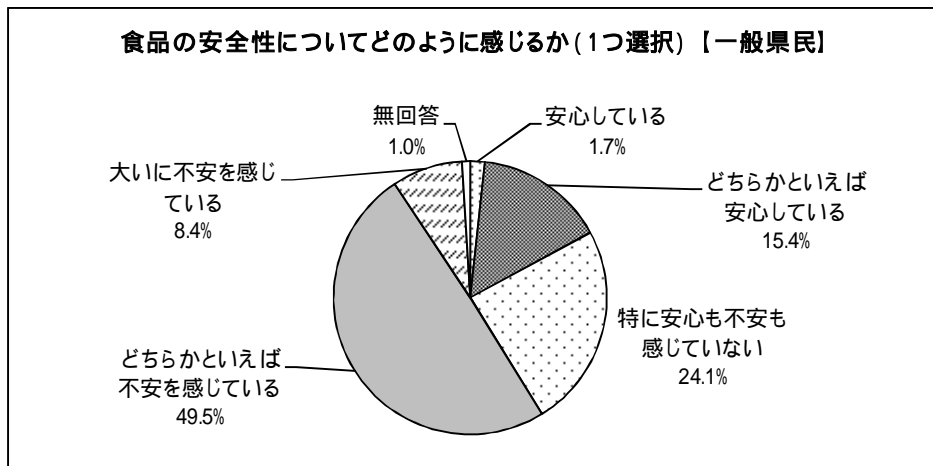
## 今回調査の結果

### 食品の安全に関する結果概要

#### 食品の安全性について（一般県民）

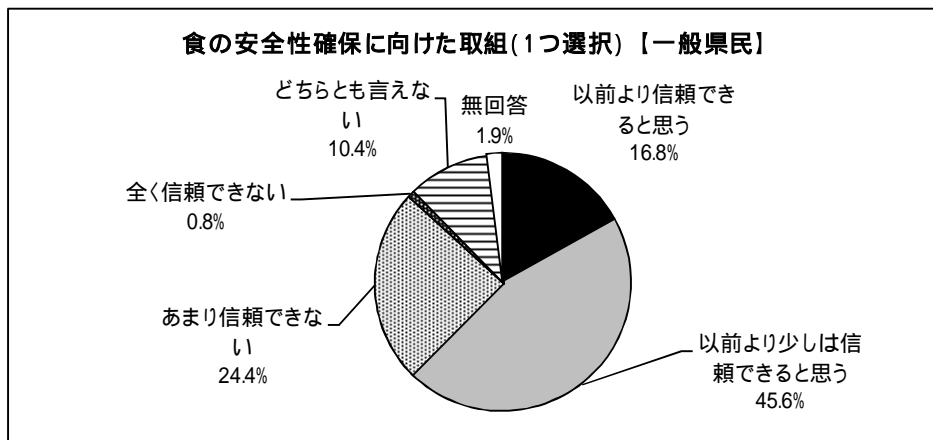
一般県民の約 58%が食品の安全性に不安を持っている

「大いに不安を感じている」と「どちらかといえば不安を感じている」を合わせた約 58%が、何らかの不安を持っている状況にある。前回調査と比較して、全般的な不安感は沈静化の傾向にあるものの、6割近い県民が何らかの不安を持っている現状を考えると、今後も食品に対する安心感の向上を図る必要がある。



安全性確保に向けた取組への信頼性は向上している

生産者、食品事業者及び行政（県）等が行っている食の安全性確保に向けた取組については、「以前より信頼できると思う」と「以前より少しは信頼できると思う」を合わせると、一般県民の6割は以前より“信頼できる”と考えており、信頼性は向上している、これは、“法令等での規制による食品に対する安全性確保”の他、“食品の安全性に関する情報提供”や“生産者、事業者による食の安全性確保の取組を知る”ことによって信頼性が向上しており、取組に対する一定の評価が得られたものと考えられる。



「食品をめぐる問題への不安」と「県に望む取組」

一般県民は、「輸入食品」に強い不安を持ち、県の取組を望んでいる

食品をめぐる問題への不安（一般県民）  
食に関する 14 項目についての不安度を指標化により比較した結果、  
第 1 位 「輸入食品について」  
第 2 位 「食品表示（不正表示）」  
第 3 位 「残留農薬問題」  
となっている。  
「輸入食品について」は唯一 80 点を超え、特に不安度の高い項目となっている。

県に重点的な取組を望む項目（一般県民）  
群馬県に重点的な取組を望む項目について、  
要望度を指標化により比較した結果、  
第 1 位 「輸入食品の安全性確保」  
第 2 位 「農薬の使用、残留に関する農作物の安全性確保」  
第 3 位 「ノロウイルス・O157 等の食中毒対策」  
となっている。  
要望度においても“輸入食品”が第 1 位となっている。

不安度と、県の取組への要望度の比較【一般県民】

不安度		取組への要望度	
順位	得点	順位	得点
1位	輸入食品について (81.7)	1位	輸入食品の安全性確保 (87.9)
2位	食品表示(不正表示) (73.5)	2位	農薬の使用・残留に関する農作物の安全性確保 (86.6)
3位	残留農薬問題 (72.2)	3位	ノロウイルス・O157等の食中毒対策 (85.6)
4位	BSE(牛海綿状脳症) (67.6)	4位	BSE(牛海綿状脳症)対策 (82.2)
5位	ノロウイルス、O157食中毒 (66.6)	5位	食品添加物の使用に関する加工食品の安全性確保 (81.8)
6位	着色料・甘味料・保存料等の食品添加物 (66.1)	6位	有機水銀、カドミウム等の重金属に関する食品の安全性確保 (80.4)
7位	ダイオキシン類 (62.6)	7位	ダイオキシンに関する食品の安全性確保 (80.3)
8位	体細胞クローン牛、豚 (61.3)	8位	食品表示の適正化推進 (79.8)
9位	遺伝子組換え食品 (60.9)	9位	動物用医薬品の使用、残留に関する食品の安全性確保 (79.5)
10位	有機水銀、カドミウム等の重金属 (60.5)	10位	流通・小売業者の自主衛生管理の推進 (79.3)
11位	食品中のアレルギー物質 (54.8)	11位	農産物生産者や食品製造業者の自主衛生管理の推進(GAP、HACCPの推進) (78.7)
12位	健康食品 (52.9)	12位	体細胞クローン牛・豚に関する安全性確保 (78.3)
13位	いわゆる環境ホルモン (52.6)	13位	遺伝子組換え食品に関する安全性確保 (77.0)
14位	動物用医薬品(抗生物質等) (47.2)	14位	いわゆる環境ホルモンに関する安全性確保 (74.3)
		15位	食品中のアレルギー物質対策 (72.9)
		16位	消費者への情報提供とリスクコミュニケーションの促進 (71.8)
		17位	いわゆる健康食品のあんぜん (71.7)
		18位	トレーサビリティの推進 (66.8)
		19位	消費者へ食の安全に関する学習機会の提供 (65.4)

“不安度”と“要望度”を比較すると、全般的には不安度が高いほど、要望度も高い傾向が見られ、不安度と要望度は相関関係にあると言えるが、特徴的な項目もあった。

<特徴的な項目> 食品表示・・・不安度は非常に高いが、取組の要望度は順位を下げている。

不安度の高さは第 2 位となっているのに対し、要望度では第 8 位にとどまっている。この明確な理由は不明であるが、食品表示は直接的な危害（健康に悪影響を及ぼす原因物質）ではないことに加え、県の施策というよりも食品の製造・販売業者の対応のウエイトが高いと捉えているのではないかと思われる。

不安度の指標化の方法（要望度の指標化の方法は、6 頁を参照。）  
「大いに不安に感じている」を 100 点、「どちらかといえば不安を感じている」を 75 点、「どちらかといえば安心している」を 50 点、「安心している」を 25 点、「分からない」を 0 点として、加重平均により不安度を指標化した。100 点に近くなるほど、不安の度合いが高いことを示している。

一般県民の食品をめぐる問題に対して不安を感じる理由は、

“生産者・事業者への不信”と“科学的な根拠に対する不安”

「残留農薬問題」,「着色料・甘味料・保存料等の食品添加物」,「輸入食品について」,「ノロウイルス、O157等の食中毒」,「BSE(牛海綿状脳症)」,「食品表示(不正表示)」の6項目については、「生産者、事業者の法令遵守や衛生管理の実態に疑問があるから」が不安を感じる理由の第1位となった。県民と生産者・事業者との信頼感の向上が、県民の不安感の解消につながると考えられる。

「動物用医薬品(抗生物質等)」,「遺伝子組換え食品」,「健康食品」,「いわゆる環境ホルモン」,「体細胞クローン牛、豚」の5項目については、「科学的根拠に対して不安があるから」が不安を感じる理由の第1位になった。特に「遺伝子組換え食品」,「体細胞クローン牛、豚」については、この傾向が突出して高く、科学的な根拠の説明が十分でないことを示している。

“BSE問題”に関する不安は、その発生当初にあった“科学的根拠”に対するものは軽減され、様々な不安感が複合的に絡まり、根強く残っているものと考えられる。

食品をめぐる問題に対して不安を感じる理由【一般県民】

項目	科学的根拠に対して不安があるから	法律、条例などの規制が不十分だから	行政の監督指導が不十分だから	生産者、事業者の法令遵守や衛生管理の実態に疑問があるから	報道で取り上げられているから	テレビや新聞等のマスコミ報道で取り上げられているから	食品の安全性に関する情報提供が不十分だから	食品の安全性に関する自分の知識が不足しているから	食品の安全性に関して問題が生じているから	その他	無回答
残留農薬問題 (N=587)	14.7%	9.0%	16.4%	39.2%	14.0%	10.7%	8.3%	11.4%	1.4%	20.1%	
動物用医薬品(抗生物質等) (N=326)	28.8%	14.1%	14.1%	23.0%	7.7%	8.6%	16.3%	5.2%	1.2%	22.1%	
着色料・甘味料・保存料等の食品添加物 (N=482)	22.0%	8.7%	14.5%	23.4%	7.3%	14.5%	16.8%	10.4%	1.5%	21.2%	
輸入食品について (N=668)	3.7%	17.5%	25.0%	29.6%	19.8%	12.6%	7.5%	19.0%	0.7%	16.2%	
ノロウイルス、O157等の食中毒 (N=471)	2.5%	4.2%	14.6%	32.7%	24.2%	8.3%	10.8%	11.9%	2.8%	24.0%	
遺伝子組換え食品 (N=450)	40.4%	10.2%	6.0%	13.8%	13.8%	14.9%	16.9%	5.3%	0.4%	20.2%	
健康食品 (N=316)	29.1%	13.9%	14.6%	18.0%	11.4%	15.2%	12.0%	8.2%	1.9%	18.7%	
BSE(牛海綿状脳症) (N=515)	14.2%	16.3%	20.2%	24.3%	22.3%	10.1%	10.1%	13.6%	0.6%	15.7%	
食品表示(不正表示) (N=575)	2.4%	19.1%	29.2%	36.3%	17.0%	6.4%	6.8%	6.3%	0.9%	19.7%	
いわゆる環境ホルモン (N=407)	24.6%	15.5%	13.5%	9.8%	14.3%	13.5%	21.6%	6.9%	1.2%	20.6%	
食品中のアレルギー物質 (N=349)	14.6%	8.0%	9.5%	14.0%	6.6%	18.9%	26.1%	11.2%	1.7%	26.4%	
ダイオキシン類 (N=481)	17.0%	19.8%	18.7%	13.3%	18.5%	9.4%	13.9%	7.3%	1.7%	20.6%	
有機水銀、カドミウム等の重金属 (N=454)	16.1%	18.3%	20.9%	15.4%	11.5%	9.7%	17.0%	9.3%	1.3%	20.3%	
体細胞クローン牛、豚 (N=492)	36.4%	13.4%	9.8%	12.0%	15.4%	12.4%	16.5%	6.7%	1.6%	17.5%	

一般県民、事業者ともに、「輸入食品の安全性確保」の取組を、県に望んでいる

全ての調査区分に共通して、「輸入食品の安全性の確保」が上位となっており、県民全般が強く要望している対策と考えられる。

また、「農薬の使用・残留に関する農作物の安全性確保」と「ノロウイルス、O157等の食中毒対策」は、一次産業を除く調査区分で上位3項目に入っており、県民の要望の強い項目であるといえる。

県取組への要望度【一般県民、一次産業、二次産業、三次産業】

項目	一般県民		一次産業		二次産業		三次産業	
	順位	要望度	順位	要望度	順位	要望度	順位	要望度
輸入食品の安全性確保	1	87.9	1	90.1	2	86.9	2	86.4
農薬の使用・残留に関する農作物の安全性確保	2	86.6	5	79.1	3	85.9	3	85.9
ノロウイルス、O157等の食中毒対策	3	85.6	8	77.1	1	89.5	1	91.5
BSE(牛海綿状脳症)対策	4	82.2	6	78.6	13	75.0	13	74.8
食品添加物の使用に関する加工食品の安全性の確保	5	81.8	3	80.1	5	82.5	4	82.7
有機水銀、カドミウム等の重金属に関する食品の安全性確保	6	80.4	2	80.2	4	83.3	6	79.3
ダイオキシンに関する食品の安全性確保	7	80.3	15	71.3	6	82.4	7	79.0
食品表示の適正化の推進	8	79.8	7	78.6	8	81.0	9	78.4
動物用医薬品の使用、残留に関する食品の安全性の確保	9	79.5	16	70.0	10	79.1	5	81.1
流通・小売業者の自主衛生管理の推進	10	79.3	11	74.5	12	77.3	8	78.9
農産物生産者や食品製造業者の自主衛生管理の推進(GAP、HACCPの推進など)	11	78.7	18	67.3	13	75.0	15	73.4
体細胞クローン牛・豚に関する安全性確保	12	78.3	9	75.7	16	73.5	14	74.1
遺伝子組換え食品に関する安全性確保	13	77.0	4	79.2	9	79.7	10	76.4
いわゆる環境ホルモンに関する安全性確保	14	74.3	17	69.9	15	73.9	17	72.0
食品中のアレルギー物質対策	15	72.9	14	72.5	7	81.2	11	75.7
消費者への情報提供とリスクコミュニケーションの促進	16	71.8	12	74.5	18	70.5	16	72.4
いわゆる健康食品の安全性確保	17	71.7	13	73.0	11	78.3	12	75.2
トレーサビリティの推進	18	66.8	19	66.2	19	64.1	19	56.4
消費者へ食の安全に関する学習機会の提供	19	65.4	10	75.2	17	71.9	18	68.9

主な特徴

- <一般県民>・・・「BSE(牛海綿状脳症)対策」が上位(第4位)となっているが、他の調査区分では要望度がそれほど高い項目となっておらず、一般県民特有の傾向であるといえる。
- <一次産業>・・・他の調査区分で要望の強かった「農薬の使用・残留に関する農作物の安全性確保」と「ノロウイルス、O157等の食中毒対策」の要望がそれほど高くないが、「有機水銀、カドミウム等の重金属に関する食品の安全性確保」、「遺伝子組換え食品に関する安全性の確保」が他の調査区分と比較して高順位となっている。
- <三次産業>・・・「動物用医薬品の使用、残留に関する食品の安全性の確保」が上位(第5位)となっているが、他の調査区分ではそれほど高い項目となっておらず、三次産業のみ要望度が高い項目となっている。

要望度の指標化の方法

「非常に重要である」を100点、「重要である」を75点、「それほど重要ではない」を50点、「重要とは思わない」を25点、「わからない」を0点として、加重平均により要望度を指標化した。得点が高いほど、強い要望であることを示している。